

株式会社舞茸奥出雲から 株式会社MAYAホールディングスへ 事業譲渡

奥出雲町の第三セクターであった株式会社舞茸奥出雲の経営を、株式会社MAYAホールディングスに委譲することになり、8月3日に役場仁多庁舎で事業譲渡式が行われました。

同社は人材育成やWEBマーケティングなど幅広い分野において強みをもっており、奥出雲町とも専門学校島根IT専門カレッジの運営等で深い関わりがあります。

今回の事業譲渡によって、奥出雲舞茸の地域特産品としての存続、長年培ってきた技術の継承・資源循環型生産体制の維持など、これまでの取り組みは確保されつつ、豊富な資金力による経営の安定化と優れた経営感覚の導入などの効果が期待されます。



▲株式会社MAYAホールディングス
内藤 献 代表取締役会長（右）

株式会社MAYASTAFFING 紺綬褒章を受章

8月3日、株式会社MAYASTAFFINGに糸原町長から紺綬褒章が伝達されました。

紺綬褒章は、公益のために私財を寄附した個人又は法人団体に内閣府から贈られる褒章です。

この度、令和7年度に本町の「結婚・出産・子育ての希望をかなえる事業」にご寄附いただき、結婚、子育て、仕事しやすい環境づくりの推進に寄与いただいた功績が認められ受章の栄に浴されました。誠にありがとうございます。



▲株式会社MAYASTAFFING
内藤 献 代表取締役会長（右）

奥出雲町地域医療確保推進協議会 研修会開催

7月22日、奥出雲町地域医療確保推進協議会の総会ならびに研修会を開催しました。研修会では、町立奥出雲病院 鈴木賢二院長と、同総合診療科部長兼内科部長 池尻文良医師が講演されました。

鈴木院長からは、町立奥出雲病院内の経営状況について、令和4年3月に5年間の経営強化計画として策定した「町立奥出雲病院経営強化プラン」を基にした取り組み状況を説明されました。健全経営の実現に向け引き続き点検・評価をしていくとのことでした。

令和6年度の診療報酬改定で「地域包括医療病棟」が新設されたことによる、高齢者救急の積極的な受け入れをするともに、リハビリや栄養士等の専門職がこれまで以上に関わることで、在宅復帰も強化されています。令和7年2月に一般病棟をこの病棟基準に転換したことで、診療単価が上がり、年間を通して大きな増収効果が得られました。一方で人口減少の影響から入院患者数は微減の状況にあるとのこと、今後の収益増については、さらなる分析が必要だということでした。

令和8年度は、「病棟存続のための事業のあり方の検討開始を見極める年となるので、引き続き独立採算を目指す経営と管理を徹底する」と述べられました。

池尻医師からは、「ここまで進んだがん薬物療法の話」と題し、がん治療について、自身の思いやこれまでの医療経験からお話しいただきました。

現在では必ず本人に告知を行ってから治療を行うことや、抗がん剤嘔吐、ではなくなってきたこと、入院だけでなく、外来で治療を続ける方が増えたことなど、がん治療のあり方は、この20年で大きく変わったということでした。

現在、島根県内のがん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医認定者）は、14名おられ、奥出雲病院にはそのうちの2人が常勤されており、心強い限りです。最後に池尻医師は、「治療は病院で、生活は地域の中で続いています。家族・地域・医療・介護・行政が一緒になって支えることが大切」と話されました。



J-クレジットご購入に対する 感謝状贈呈式開催

町では、豊かな森林が生み出す環境価値を最大限に活かした地域脱炭素のモデルを構築すべく、森林由来のJ-クレジットの販売を令和7年から開始しています。

この度、本取組により創出されたJ-クレジットを、カナツ技建工業株式会社様に100トンご購入いただくこととなり、感謝状（木製植）贈呈式を開催いたしました。

ご購入いただいた販売収益により町内の林業振興や環境保全を図り、脱炭素の取り組みを推進していきます。



▲カナツ技建工業株式会社
金津式彦 代表取締役社長（右）

企業版ふるさと納税による ご寄附をいただきました

ONE GROUP 株式会社ONE様

株式会社ONE様から町に対し、100万円の企業版ふるさと納税によるご寄附をいただきました。

同社は、「お客様を含めたひとつの家族ONE」を理念に掲げ、リスクマネジメント、資産防衛・資産形成、事業承継などの幅広い分野において、グループの専門知識やノウハウを生かしたワンストップサービスを提供しています。お客様一人ひとりに寄り添った支援を行うとともに、地域社会の発展にも貢献されています。

この度いただきましたご寄附は、「稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする事業」に活用させていただきます。



奥出雲町戦没者追悼式



令和8年度奥出雲町戦没者追悼式が8月8日に、カルチャープラザ仁多で行われ、約110人が参列し、現在も世界各地で戦争が続く状況の中、命の大切さや平和の尊さを次の世代に受け継いでいくことを誓い合いました。

仁多郡遺族連合会を代表して植田生夫さん（八川）は「私たちは、改めて戦争のない平和な日本、自由な社会の重要性を再認識し、今後戦争の悲惨さや恐怖を風化させることなく、平和な日本であり続けるよう語り伝えてまいります。」と追悼の言葉を述べられました。

戦没者追悼式後には、島根県遺族連合会 石原道夫会長による語り部講話が行われ、遺骨が戻ってこない悲しさが語られました。またその後に行われた、仁多郡遺族連合会の総会では、郡会長表彰を、戸屋 豊さん（馬木）が受賞され、長年の功績が讃えられました。



▲戸屋 豊さん

シティプロモーション 特命戦略アドバイザー着任

浦川 大将さん (うらかわ だいすけ)

町の魅力発信力を強化するため、アドバイザーとして浦川大将氏をお迎えしました。動画制作やSNS運用の豊富な実績を活かし、奥出雲町の情報発信スキルの向上や研修・伴走支援等にに取り組んでいただきます。町の魅力を全国へ届けていきましょう！



ハロウィンジャンボ4億円 (1等2億円・前後賞各1億円合わせて) ハロウィンジャンボミニ同時発売

この宝くじの収益金は市町村の明るく住みよいまちづくりに使われます。

各1枚 300円
9月16日(水) 発売!
発売期間9/16(水)~10/16(金)

宝くじ公式サイト 公益財団法人島根県市町村振興協会

佐川急便株式会社と 災害時物資供給協定を締結

8月25日、仁多庁舎において、奥出雲町と佐川急便株式会社による「災害時における支援物資の受入及び配送等に関する協定」調印式が行われました。この協定は、地震、風水害等の大規模な災害が発生した際、被災者に対し食料及び生活必需品等の物資の安定供給を行う事により、被災者の生活の安定を図ることを目的としています。余平恵介所長は「これまで培ってきた、災害時の配送などのノウハウを、奥出雲町における災害時でも発揮し貢献していきたい」と話されました。

今回の協定締結により、町民の皆さんが安心して暮らせる地域づくりにつながることが期待されます。



▲佐川急便株式会社 松江営業所 余平恵介 所長（右）